

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	W e b デザイン実習 3 B	
科目基礎情報							
開設学科	W e b クリエイター科		コース名		開設期	前期	
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	60時間
単位数	2単位		授業形態	実習			
教科書/教材	参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。						
担当教員情報							
担当教員	関口和真			実務経験の有無・職種	有・プログラマー		
学習目的							
1年次授業では、W e b サイト上で実現できる様々なエフェクティブな表現の種別を知識として身に着けた。 現在のWeb制作においては、JavaScriptを活用し、さまざまな表現やサーバーサイドの連携など、HTMLやCSSだけでは表現できない、または実現不可能なことを実現することが一般的に行われている。 JavaScriptを活用し、アニメーションなどを用いて、表現力の幅を広げることで、使い勝手やデザイン性に配慮したWebサイトを作っていくための力を養うことを目的として学習を進めていく							
到達目標							
JSの基本知識を習得し、活用できる。 全ての場面でインタラクションが必要とは限らないため、インタラクションを用いた方が良いか判断する能力の醸成と他者に対して説得力をもったデザインを考察し、実装が出来る。 JSを利用したインタラクションデザインを実現するためにJavaScriptの習得と活用の方法をサンプルや実習を通して学び習得する。							
教育方法等							
授業概要	JavaScriptの知識習得、活用方法の理解。 インタラクションの必要性判断および他者にデザインやインタラクション要素を説明できる能力の習得 サンプルを通じたプログラムの作成						
注意点	プログラミングは連続した知識が必要となるため、授業の欠席があった場合、必要な知識が欠如する可能性が高く、必要な技能が習得できなくなるため、可能な限り欠席をしない。 授業内で得た知識を直ぐに利用して、次のことを行うため、自己による復習、活用が必要である						
評価方法	種別	割合	備 考				
	作文・課題	80%	課題を総合的に評価する				
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	プロトタイピングツールとWebデザイン作成			Adobe Xdの使用方法が理解できる。プロトタイプを作成できる			
2回	CSSアニメーションの使いどころ			CSSアニメーションの使い方が理解できる			
3回	JavaScriptの基本知識、使用場面			JavaScriptにおける変数・制御が理解できる。JavaScriptの使用場面がある程度想起できる			
4回	JavaScriptの記述			JavaScriptの変数、制御、関数を利用して簡単なプログラムを作成、読み出すことができる			
5回	イベントの組み合わせ			イベントの概念を理解できる。イベントを利用して関数を呼び出すことができる			
6回	DOMの扱い			HTMLとJavaScriptを連携しCSSを変更できる。HTMLの中身を書き換えることができる			
7回	jQueryの利用、イベントの利用、CSSの動的変更			jQueryの扱い（読込）、記述方法、jQueryを通したCSSの変更方法が理解できる			
8回	jQueryプラグインの利用、設定変更			jQueryのプラグイン利用について把握ができる。設定を変更して利用することができる			
9回	ブラウザオブジェクトの利用、jQueryを利用したスタイルの変更			jQueryを利用して、要素のレイアウトを変更することができる。状況に即したイベントが使える			
10回	イベントと組み合わせたアニメーションの利用、アニメーションの調整			jQueryを利用したアニメーションの利用、CSSアニメーションとの使い分けができる。			
11回	JSを利用したサイトの作成			JSを利用し、PC向けサイトを作成することができる			
12回	JSを利用したインタラクションの作成			JSを利用し、効果的なインタラクションをもったUIを作成し、組み込むことができる			
13回	RWDにおけるJSの利用			レスポンスWebサイトでのJSの利用、活用を理解し、利用場面を想定した組み込みができる			
14回	RWDにおけるJSの組み込み、利用方法			レスポンスWebサイトでのJSの効果的な利用方法を想定し、組み込むことができる			
15回	JavaScriptにおけるデバッグ			エラー発生時に内容を確認するための手段を把握し、修正をすることができる			